



銀座の言語景観調査

日本大学文理学部国文学科
基礎演習2

はじめに

恒常的掲示物からみた銀座

臨時の掲示物からみた銀座

>> 臨時の掲示物調査

銀座・有楽町地区
デパートの言語サービス

新聞記事からみた銀座

ブログ記事からみた銀座

あとがき

臨時的掲示物からみた銀座

臨時の掲示物の形式について

国文学科2年 納谷亮太

このトピックでは臨時の掲示物の形式について述べていく。
以下は臨時の掲示物の形式に関する調査データである。

形式	張り紙形式	POP形式	ボード形式	垂れ幕形式
枚数	106枚	26枚	32枚	5枚

形式に関しては、張り紙が最も多かったのだが、注目をしたいのはボードの存在である。張り紙などと違い店舗に接着せずに済み、人の通りにより近く、角度も人から見やすい位置に設置することができる。さらに、今回の調査で、ボードは他の形式より大きいものが用いられることが多いことがわかった。つまりボードは、スペースが広く必要になるものの、店舗の外観を損なうことなく、サイズの大きなもので情報をアピールすることができる形式であることがわかった。(画像1)



画像1

また、ボード形式には手書き形式のものもあった。(画像2)

銀座中央通りにおける臨時の掲示物の印刷と手書きの内訳は以下のとおりである。

印刷	155枚	手書き	14枚
----	------	-----	-----

表をみてわかるように、ほとんどと言っている数の臨時の掲示物は印刷されてきている。印刷であれば、手書き程の間隔はかからない上に仕上がりはきれいになるため、手書きより数が多くなりがちである。だが手書きならば下の画像のように蛍光色を用いて、手書きにない独特の質感で華やかに演出することもできる。また、この場合はブラックボードを使っているため、何度も書き直して使うことができ、コスト面からみても優れている。





[\[一階査の概要へ戻る\]](#)

